

【4 西海市 Saikai City】



西海橋から

西海市では、佐世保市との間にかかる西海橋の周辺沿岸部のほか、市の中央部にある八人ヶ岳公園の展望台や、北部の長崎県立西彼青年の家のある虚空蔵(こくぞう)山の展望台などから、大村湾・諫早市越しに“北西面の雲仙岳”が眺望できます。大村湾の湾口の潮流を手前に、ハウステンボスや多良岳とセットで眺められるパノラマは絶景で、多良岳の長い裾野の上に波打つように浮かぶ雲仙岳のシルエット(↓)は、この地域ならではの景観です。

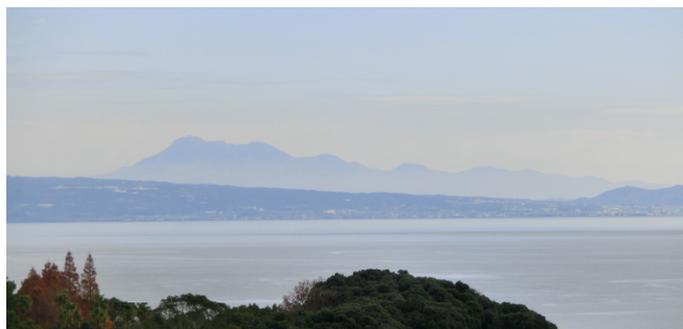
虚空蔵山の展望台からは、佐世保市内の烏帽子岳や将冠岳、五島列島も見渡せ、西海国立公園と雲仙天草国立公園の両方が一望できます。雲仙岳方面から本市に至る九州自然歩道は、虚空蔵山や西海橋を通して佐世保市へと続いており、両公園のつながりが感じられる歩道です。

中世の時代、南蛮船来航と共にキリスト教が伝来し、1563年にはイエズス会が雲仙岳そびえる島原半島の南端の口之津(西九州の交通の要所)に入り、島原半島での布教を開始し、口之津は九州管内区のキリスト教布教の拠点となりましたが、長崎～大村～本市一帯を治めていた領主・大村純忠(島原領主・有馬氏からの養子)は、前年の1562年に市内の横瀬浦を貿易港として開港し、翌1563年には横瀬浦の教会にていち早くキリスト教に改宗し、日本で最初のキリシタン大名となりました。その後、同じくキリシタン大名となった島原領主の有馬晴信(純忠の甥)や大分領主の太田宗麟と共に、日本国内での布教の成果をローマ教皇へ示すため、雲仙岳南麓にあった有馬セミナリヨの第一期生4名を“天正遣欧少年使節”としてローマへ派遣しました(1582～1590年)が、四名のひとり中浦ジュリアンは、本市中浦の出身です。

豊臣秀吉・徳川家康によるキリスト教禁教以降、島原・天草においては、領主の交代も相まって、厳しい信徒弾圧や過酷な徴税によって領民の不満が高まって行き、有名な“島原・天草一揆”へと突き進みました。その頃、大村氏は既にキリスト教から改宗しており、一揆鎮圧の幕府軍への協力要請を受けて、一揆軍が襲撃する可能性のあった長崎へ藩の兵を派遣し、警備に当たりました。一揆鎮圧後は、島原・天草領内に無人地帯が生じたため、幕府の命令に従い、藩内の領民の一部を島原へ入植させました(当藩では、新天地を求めて勝手に移住する領民も多く現れました)。

雲仙岳の様々な表情を探しながら、西海市内を旅してみませんか？

●西海市の観光情報はこちら ⇒ 西海市観光協会 <http://www.saikaicity.jp/>



西海橋から(拡大)